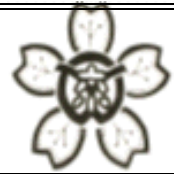


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 994名
令和5年3月1日号

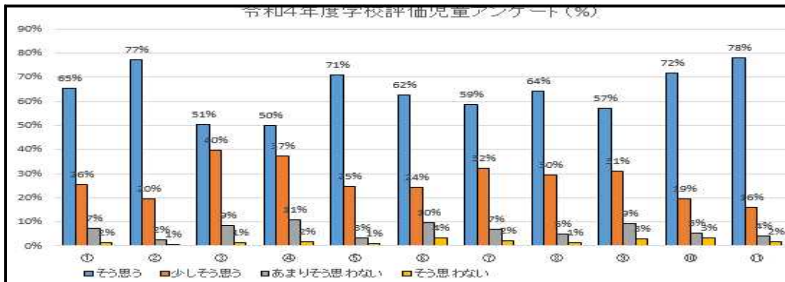


「自律と探究」は、次の段階へ

校長 田邊 雅也

学校評価の結果から、「自律と探究」の学校経営について、本校の学校運営協議会でも振り返りました。以下のように、「自律と探究」は次の段階に入り、試行錯誤していくことを確認しました。

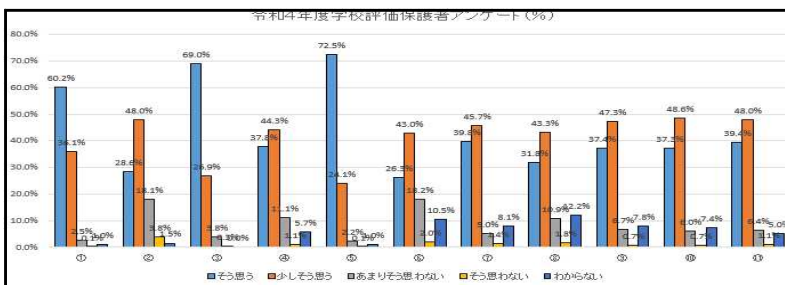
■ 児童アンケートから



- ①わたしは、学校が楽しい。
- ②わたしは、友だちと なかよくしている。
- ③わたしは、自分で考えたり、行動したり、進んで学んだりする力がついてきている。
- ④わたしは、毎日の学習がわかる。
- ⑤わたしは、タブレットを使って学習することができる。
- ⑥わたしは、運動する 力が ついてきている。
- ⑦わたしは、自分から あいさつや返事ができる。
- ⑧わたしは、安全に注意して過ごしている。
- ⑨わたしは、バランスのよい 食事をしている。
- ⑩こまったとき 先生は、話を聞いてくれる。
- ⑪わからないとき 先生は、しっかり教えてくれる。

前向きな結果です。「自律と探究」の学習を目指す上で、③「自分で考えたり、行動したりする力」が、昨年度の87%から91%（そう思う・少しそう思う）に上がりました。④「毎日の学習がわかる」は87%と昨年同様、⑤「タブレットの使用」は、昨年度同様、高い割合となっています。

■ 保護者アンケートから



- ①子どもは、学校教育目標の「思いやりのある子」に育っている。
- ②子どもは、学校教育目標の「自ら学ぶ子」に育っている。
- ③子どもは、学校教育目標の「元気な子」に育っている。
- ④学校は、子どもの良さを見つけ、伸ばそうとしている。
- ⑤学校は、タブレット端末の活用を推進している。
- ⑥学校は、子どもの興味や意欲、個に応じた指導をしている。
- ⑦学校は、子どもの間違っただ行動を適切に指導している。
- ⑧学校は、子どもの不安や悩みの相談につてくれる。
- ⑨学校は、健康の保持増進について適切に指導している。
- ⑩学校は、給食指導・食育指導について適切に指導している。
- ⑪学校は、防災、防犯、事故防止について適切に指導している。

「自律と探究」に関わる項目で、②「自ら学ぶ子」は向上、④「子供の良さを見つけ、伸ばす」がやや低下、⑥「興味や意欲、個に応じた指導」はやや低下しました。子供のアンケート（項目③）と保護者アンケート（項目②④⑥）と比べ、「自律と探究」をかなり自覚している子供たちと、保護者の意識にやや乖離があります。保護者は自分のお子さんに厳しく、また、子供も、学校の様子とご家庭での様子が違うのだと感じます。

■ 全体を通しての成果と課題

成果は、「自律と探究」を自覚する子供たちが増えたことです。加えて、本校の教職員の94%は、授業改善で成果を上げることができた、と回答しています。「I can do it !」の意識のある子供主体の学びの割合を増やせたことが理由だと考えられます。また、「Let's do it !」の意識で、保護者・地域（学校運営協議会、学校応援団、PTA、おはなしの木、ぐらんぱ等）との連携がさらに深まり、子供たち一人一人の学びを支える「目」が増えたことも、もうひとつの理由だと感じています。

しかし、子供と教員の「自律と探究」の意識が高くなった一方で、保護者の意識は、微増、微減となり、教育活動における子供と保護者の意識の乖離を、小さくしていくことが求められると感じます。

■ 次は「オーセンティック」と「ウェルビーイング」を

次年度は、身近で切実な課題に対して、子供が問いを立て、試行錯誤する教育活動をさらに増やしていく予定です。「オーセンティック（真正）な学び」がキーワードです。これは、日々の生活に根づいた学びと、学術的な面白さに迫る学びのことを指します。そして、「自分で、自分から」という意識に加え、「誰かのため、みんなのため、何かのため」という相手意識・目的意識をもたせます。その中で、「ウェルビーイング（幸福）」を感じ、「生きて働く力」が身につけば素晴らしいことです。

学校評価の課題である、子供と保護者の乖離した意識を解決するには、お子さんがご家庭で学びの様子を話したり、学校と保護者の連携をさらに深めたり、学校が積極的に情報を発信したりすることが大切だと考えます。来年度は、「自律と探究」も次の段階に入ります。子供たちの「生きて働く力」を育むことを目指していきたいと思ひます。令和5年度もよろしくお願いいたします。